

国語科 学習指導案

日 時	令和6年10月23日(水) 第5校時13:40~14:30
対 象	第2学年B組 34名
指導者	主任教諭 水野 直子
場 所	3階2年B組教室

1 単元名 「読みを深め合う」

教材名 三好達治「大阿蘇」(使用教科書:三省堂『現代の国語2』)
(比較する作品 三好達治「列外馬」)

2 単元の目標

- (1) 表現の特徴を捉え、表現に即して描かれた情景を想像し、作者の思いを考える。
- (2) 観点を決めて「大阿蘇」と「列外馬」を読み比べ、「大阿蘇」に描かれた情景や作者の思いについて、考えを深める。
- (3) 多義的な意味を表す語句や反復される語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことで語感を磨き、語彙を豊かにする。
- (4) 進んで表現の効果について考え、学習課題にそって考えを伝え合おうとする。

3 単元における授業の工夫

「大阿蘇」は、90年近く前に書かれた作品であり、口語詩ではあるが語彙も平易ではない。また、3年間に学ぶ詩のうちこの詩だけが叙景詩であり、情景を手掛かりに作者の心情に迫っていかねばならない。そこで、同じ作者の散文詩「列外馬」と比較しながら、馬に焦点をあてて描写を読み取らせることで、「大阿蘇」で描かれている馬に作者は何を思ったかを読み深めていきたい。

「列外馬」は、中国の戦場でうち捨てられた軍馬を焦点化して描写した詩で、作者が上海事変を現地取材する特派員として従軍した際の見聞を元に書かれたもので、比べ読みに適した作品であると考えた。

【「わかる」授業デザインの工夫】

(1) 視覚的に理解を深めるためのICTの活用

本単元では、2つの詩の情景を頭の中で写真のように思い描くことが鑑賞するうえでのポイントとなる。補助資料がなくても豊かに想像できる生徒もいるが、写真などを提示することで、視覚的に理解ができるようにした。

(2) 「観点を決めて比較する表」をつくる協働学習

説明文の読解では、表を用いて「比較」することは今までも行ってきたが、今回の学習では、比較の観点を考えることを含めた表づくりを4人組で行う。観点を考えることは、具体、抽象を意識させる学習で、グループ活動を通して意識化させたいと考えた。

また、2つの詩から多様な考えが出ることも予想され、協働学習が効果的だと考えた。

(3) 作者の人生、作品の背景の知識で深める関心

文学の鑑賞において、作者の生き方や作品の背景を知ることが鑑賞の助けになる。

本単元でも、三好達治の人生や詩の創作背景を知ることによって、作者の思いを想像しやすくなるよう工夫した。

【生徒が主体的に「できる」と確認したくなる授業デザインの工夫】

(1) 「観点を決めて比較すること」の定着を図る。

「比較の観点をもつこと」「表にして考えを整理すること」は、他の作品の読解、他教科の学習だけでなく、日常生活でも使える思考の技である。そこで「観点を決めて比較をすること」を授業で行った後、別の課題に取り組んだり、定期考査に出題したりするなどして評価をした。今後、別の単元の授業でも再度取り組ませ定着を図る。

(2) 単元の初めと終わりでの読みの変化や深まりを記述させる。

「大阿蘇」の最初のイメージを「悲しい」「寂しい」と答える生徒は多い。「大阿蘇」だけで考えた「馬」の印象と、「列外馬」と比べて読んで考えた「馬」の印象は異なるはずである。描写にこめた作者の思いの読み取りの変化を記述させ、詩の鑑賞のおもしろさや、読みの深まりを自覚させたい。

4 単元の指導計画と評価計画（全3時間）

★「わかる」授業デザインの工夫

☆生徒が主体的に「できる」と確認したくなる授業デザインの工夫

時	目 標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・「大阿蘇」で描かれる情景と表現の特徴を捉える。 ・作者の心情を読みとる。 ・「列外馬」を一読し、あらましを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の特徴（反復）、語彙の効果（蕭々、ぐっしょり濡れそぼつ、濛々）を考え、情景を具体的にイメージする。 ・詩から受ける印象（寂しい、もの悲しい）をどのような表現から来るものか話し合い、発表する。★☆（4人組学習） ・心情が述べられている行の意味を話し合う。 ・「列外馬」の訳を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の表現技法についての知識を用いて読み取っている。（発言分析・ノート記述確認） 【知・技】(I)オ1年 ・多義的な意味を表す語句に着目し、使い方を知り語彙を豊かにしている。（発言分析・ノート記述分析） 【知・技】(I)エ ★（ICTの活用）時代背景を知る。（新聞社写真集より）
第2時 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの詩を比べて気付いたことを表にする。 ・「大阿蘇」の作者の思いを再考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「馬」の描写の相違点を話し合う。（比較の観点を決め、表を完成する。） ★☆（4人組学習・思考ツール） ・「大阿蘇」を読み返し、作品から読み取れる情景や作者の思いについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点を明確にして比較している。 【思・判・表】C(I)エ ・進んで学習課題に取り組み、課題に沿って考えを伝え合おうとしている。【主】 ★（ICTの活用）時代背景
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・作品成立の背景を知る。 ・「列外馬」と比較して、再度「大阿蘇」の情景や作者の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の成立についての情報から作者の思いを考える。 ・「列外馬」と比べた後の「大阿蘇」での「作者の思い」をまとめ、発表し合う。 ・最初の自分の考えとの変化を明確にし、ワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★（ICTの活用） 時代背景と作者の行動を重ねた表。（スライド） ・情景や作者の思いについて考えを深め、ワークシートに記入している。 【思・判・表】C(I)オ（ワークシート記述確認）

5 本時の展開（全3時間中の2時間目）

(1) 目標

「大阿蘇」の馬と「列外馬」の馬を、観点を決めた表を使って比較することができる。

(2) 「わかる」授業デザインの工夫

- ① 視覚的に理解を深めるためのICTの活用
- ② 「観点を決めて比較する表」をつくる協働学習

(3) 生徒が主体的に「できる」と確認したくなる授業デザインの工夫

- ① 比較する前と後でどのように読みが変化したか友達と確かめ合う。
- ② 「観点を決めて比較する表」を別の観点で新たに作る。

(4) 展開

★「わかる」授業デザインの工夫

☆生徒が主体的に「できる」と確認したくなる授業デザインの工夫

時間	学習内容・学習活動 (T:発問、S:予想される 答え)	指導上の留意点 配慮事項	評価（評価方法）
導入 10分	<p>1 本時の目標の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時の目標 「大阿蘇」と「列外馬」を観点をを用いて、比べて考えよう」</p> </div> <p>2 なぜ中国の戦地の詩なのか想像する。 T1:列外馬のいる光景を作者は見たのか、それとも想像か。見たとしたらなぜ中国に行ったか、どう思いますか。 S1:中国に移住したから。 S2:兵として軍に参加したから。 T2:雑誌の従軍記者として軍の様子を実際に見て作った詩でした。どのような思いでその馬を見ていたかがはっきりするように、「大阿蘇」の馬と比べてみましょう。</p>	<p>・時代背景や作者の体験も知って、作者の詩にこめられている思いを考える。</p> <p>★(ICT活用 視覚資料)</p>	
	<p>3 「大阿蘇」と「列</p>	<p>・観点を決めて相違点を見</p>	

展開
35分

外馬」の「馬」の比較の手順を知る。
4 「観点」とは何かを確認する。
T3：教科書 p97の「食べ物→果物→りんご（上位語→下位語）」を見てみましょう。上位語、下位語、どちらが「まとめる言葉」ですか。
S3：上位語。
T4：そうですね。観点は左右に書く内容の上位語になる、「まとめる言葉」です。観点は一つの名詞にするとわかりやすいですね。

付けることを確認する。
・表を作る際の「観点」の言葉は、名詞で相違点の「上位語」。相違点は具体的な内容に対比的になるように書くよう例をあげて説明する。
・表の中の言葉は詩の中の言葉ではなく、自分たちで考えることを伝える。
・観点は名詞で短い言葉にすることを伝える。

・観点と左右の内容がわかる表（プリント）を見せ、このような形でまとめるように指示する。

学習活動 I
5 「大阿蘇」の馬と「列外馬」の馬を比べ、相違点を表にする。
・ワークシートに自分で考え、箇条書きで記入する。
・相違点を4人組で考え、ホワイトボードにまとめる。
T5：班で考えを共有します。表の真ん中に「観点」を入れ、ホワイトボード上で表を作ってみましょう。15分で作り、その後発表してもらいます。
6 ホワイトボードを黒板に貼って説明を聞き合う。
T6：どのような観点、対比的な相違点が出たか見ていきましょう。観点だけ読み上げてみてください。
S4：仲間、本能、生

・2つ以上書くようにする。
★☆☆（4人組学習・思考ツール）

・ホワイトボードにまとめる形式を確認する。
・「観点」を後から考え、先に違いを出させていく。
・相違点3つを目標に書かせる。
・机間指導をする。
【4人組のホワイトボードの例】

「列外馬」の馬		「大阿蘇」の馬
何も食べられな いほど衰弱し、 もう生きる意志 がない。	生 命 力	自然の中で、好 きなだけ草を食 べ、本能を満た している。
人間に使い捨て られ、銃声の聞 こえる草原で、 孤独な死に向か っている。	仲 間	群れの中に子馬 もいて、家族や 仲間の馬と一緒 にいる。

・自分で見つけた相違点を「まとめる言葉」となる観点を考えて比較している。【思・判・表】 C(1)エ

・進んで「相違点」「対比的な内容」「観点」の考えを出し、伝え合おうとしている。【主】
（ワークシート記述）

・自分たちが見つけた相違点を「まとめる言葉」となる観点を考えて、比較している。
【思・判・表】 C(1)エ
（観察）
・発表を聞いてわかったこと、感じたことを伝え合おうとしている。【主】
（発言・ワークシート）
・情景や作者の思いについて考えを深めワークシートに書いている。
【思・判・表】 C(1)オ

	<p>き方、生命、生きる意志、人との関わり。 T7：なるほどと思った観点や比較の言葉をワークシートに書き加えましょう。</p>														
	<p>学習活動Ⅱ 「馬」の相違点から、それぞれの詩でどんな思いで馬を見ているか、作者の思いを考える。 7 ワークシートに作者の思いをまとめ、共有しあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が注目した観点の言葉から、作者の思いをまとめさせる。 ・友達の考えから学びあう。 	<p>【課題の観点、比較の例】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>命</th> <th>人</th> <th>作者の心</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本能を満たしている。</td> <td>いない。</td> <td>る大自然の心地よさ。</td> <td>大阿蘇 ゆったりした時間が流れる</td> </tr> <tr> <td>既に馬でない。孤独。</td> <td>死を待つだけの命。</td> <td>命が軽視されている。</td> <td>列外馬 戦争で人間の勝手な理由で犠牲になってしまふ馬への憐み。</td> </tr> </tbody> </table>	命	人	作者の心		本能を満たしている。	いない。	る大自然の心地よさ。	大阿蘇 ゆったりした時間が流れる	既に馬でない。孤独。	死を待つだけの命。	命が軽視されている。	列外馬 戦争で人間の勝手な理由で犠牲になってしまふ馬への憐み。
命	人	作者の心													
本能を満たしている。	いない。	る大自然の心地よさ。	大阿蘇 ゆったりした時間が流れる												
既に馬でない。孤独。	死を待つだけの命。	命が軽視されている。	列外馬 戦争で人間の勝手な理由で犠牲になってしまふ馬への憐み。												
まとめ 5分	<p>8 振り返り T8：今日の授業では双方の詩の「馬」に着目して比較しましたが、自分たちの班の表と、もう一つ、印象に残った表を写しておきましょう。また、「馬」以外の他の観点はどうでしょうか。もう1枚表を配るので、考えてみてください。 ・次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・馬以外に2つ観点を考えて表に加え、まとめさせる。 ・この課題については、後日、印刷し共有させる。 ・第3時の目標と内容のあらましを伝える。 													

6 本実践を通しての指導者の分析

本実践では詩の鑑賞に「『比較の表』という思考ツールを使った協働学習を取り入れる」という点を「全員が鑑賞に参加し自分の考えをもつことができる」ための仕掛けとした。「ワークシート記述」と「定期考査での出題の解答」を評価したが、これを分析する。

「ワークシート記述」では「比較する前後で考えが変わらなかった」という記述はなく、「比較前は『蕭々』『雨が降り続く』の表現から作者の気持ちも暗くどんよりとしていたと感じたが、比較後は変化した」という内容が多く、それぞれ変わった点を記述していた。

定期考査には授業で行った表づくりを出題した。観点1つを挙げ(①)、2つの詩についての記述(②③)をし、実際に表を作る問題である。一学級の抽出ではあるが①②③全正答の生徒が51.3%だった。他の3つの読解の記述問題(全正答30.3%、30.3%、15.1%)と比べると、4人組で相談し体を動かしながら作業したことが、定着の理由と考えられる。